

# 「第2期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略」 について

鹿追町役場 企画課長 草野 礼行

## 1 はじめに

鹿追町は北海道の屋根といわれる大雪山系と日高山脈を境として、太平洋に広がる十勝平野の北西部に位置しています。

先人たちの不断の努力と開拓精神により、肥沃で豊かな農業地帯が築かれ、今ではバイオガスプラントによる資源循環型農業の確立や同プラントを核としたゼロカーボンシティへの取り組み、大雪山国立公園唯一の湖である然別湖を中心とした観光の展開、幼小中高一貫教育やICT教育などの特色ある教育の導入、そして2013（平成25）年には十勝で唯一のジオパークとして認定を受けるなど、先進的で特色のあるまちづくりを進めています。

一方、本町の人口動態については、減少率は緩やかなものの大学進学などに伴う転出超過が著しく、2015（平成27）年における合計特殊出生率は1.58となっており、国の1.45、北海道の1.31を上回るものの、人口維持に必要とされる2.07を下回っている状況です。

総人口の減少は、生産年齢人口の減少や消費市場の縮小を併発し、社会生活サービスの低下からさらなる人口流出を引き起こす悪循環を招くことで、町政や地域経済に大きな影響を与えることとなることから、第2期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略の実践により、「地方創生」を実現するものです。

## 2 第2期鹿追町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」）の概要について

総合戦略の策定は、議論の効率性等に鑑み、本町の最上位計画である第7期鹿追町総合計画（以下、総合計画）の策定と並行し、産官学金労言などからなる「鹿

追町まち・ひと・しごと創生推進会議（以下、推進会議）」を最上位会議体と位置づけ、各団体代表者などからなる同町民会議、延べ220名の町民が参加したまちづくりワークショップによる提案などを参考にしつつ、SDGsなどの国際的な目標や国・北海道、十勝町村会などの施策動向などを注視した上で策定しました。

具体的には、以下の3つの基本的視点を踏まえながら、4つの基本目標を軸とし、この目標を達成するための「18の戦略」についてまとめています。

期間は、2020（令和2）年度～2023（令和5）年度までの4年間としており、重要業績評価指標（KPI）を設定し、毎年推進会議にてその進捗評価を行います。

### ・3つの基本的視点について

#### (1) 東京圏や札幌圏への人口流出に歯止めをかける

鹿追町に住み、働き、豊かな生活を送りたい人を増やし、その希望をかなえられる環境を実現する。

#### (2) 若い世代の就労と、結婚・出産・子育ての希望を実現する

若い世代が鹿追町で安心して働き、希望どおり結婚・妊娠・出産・子育てをすることができる社会を実現する。

#### (3) 人口減少・超高齢化社会など時代を見据えた地域を構築する

人口の中長期的な展望を踏まえて、機能的・効率的で持続可能な生活基盤を構築する。また、地域社会を構成する人々が共に支え合い、安全で、安心して住み続けられる社会を実現する。

### ・4つの基本目標について

#### (1) 地域における安定した雇用を創出し、これを支える人材を育て活かす

- (2) 地域への新しいひとの流れをつくる
- (3) 若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる
- (4) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

**3 「18の戦略」による取り組み事例について（一部紹介）**

総合戦略では、4つの基本目標に紐づく「18の戦略」を立てています。本誌においてはその中でも主たる施策についてご紹介をさせていただきます。

- (1) 地域における安定した雇用を創出し、これを支える人材を育て活かす

**【戦略4】 バイオガスプラントの有効活用・推進**

本町には、国内最大規模となる2基の資源循環型バイオガスプラント（家畜ふん尿由来）が整備されており、2020（令和2）年には、「リデュース・リユース・リサイクル（3R）推進功労者等表彰」で最高賞の内閣総理大臣賞を受賞するなど、先進的にバイオガスプラント事業を展開しています。

本戦略においては、町内酪農家の飼養頭数の増加に伴い、家畜ふん尿処理に係る作業量などが増加していることから、新たなバイオガスプラントの整備やさらなる有効活用が求められており、未整備地区の整備を推進するとともに、現在FIT（固定価格買取制度）において売電しているエネルギーの新たな有効活用の推進について調査・研究を推進することで、民間組織である「バイオガスプラント利用組合」及び専門的な技術者などの安定した雇用の創出につなげるものです。



中鹿追バイオガスプラント



瓜幕バイオガスプラント



バイオガスプラントの仕組み

**【戦略6】 新たな再生可能エネルギーの有効活用**

本町では、環境省による公共施設先進的CO<sub>2</sub>排出削減モデル事業として、「太陽光」と「地中熱」をエネルギー源とした「しかおい自営線ネットワーク（マイクログリッド）」を構築し、9つの公共施設にてそのエネルギーを「自家消費」しています。

また、前述したバイオガスプラントの取り組みを核としながら、2021（令和3）年第1回鹿追町議会定例会において、2050年までにカーボンニュートラルを実現すべく、「ゼロカーボンシティ」に挑戦する旨の宣言を行っています。



ソーラーパネル

本戦略においては、ゼロカーボンシティの実現など、環境にやさしいまちづくりを推進する中で、新たな再生可能エネルギーの有効活用が求められており、しかおい自営線ネットワークを整備し、適切に運用することで、バイオガスプラントの電力の受け皿となる地域新電力会社の設立や専門技術者の雇用などにより、安定した雇用の創出につなげるものです。

- (2) 地域への新しいひとの流れをつくる

**【戦略7】 自然体験留学制度の推進**

本町では、1987（昭和62）年に自然体験留学制度を導入し、自然体験留学センター及び親子留学専用住宅を整備しています。これまで、多くの留学生を全国から受け入れ、豊富な自然を生かした同センター独自の自然体験学習を提供し、本町の移住・定住にも大きく貢献しているものです。

また、本制度は他地域からの生徒を受け入れることで、地元の生徒にとっても異なる考え方や文化を学ぶ



自然体験学習（搾乳体験）



自然体験留学親子専用住宅





切れ目のない支援体制を整備しています。

本戦略においては、安心して子育てができる環境を整えることが求められている中、妊娠・子育てに関する経済的負担の軽減や、相談体制を充実することによる「包括的支援」を実践することで、若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえることにつなげるものです。

#### (4) 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

##### 【戦略16】光回線など高速通信に関する調査検討及び整備促進

本町では、強い要望のあった光回線未整備地区の整備について、民設民営方式により、2020（令和2）年から整備事業に着手し、2022（令和4）年4月からのサービス提供に向けて工事を進めています。

本戦略においては、光回線未整備地区の整備について求められている中、優位な財源を確保し、スピーディーに事業に着手することで、さらなる農業の発展

や医療・教育の充実など、鹿追町ならではのSociety5.0社会を実現することが可能になることから、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携することにつなげるものです。



##### 【戦略17】

- ① 町民の町政参加機会の拡充
- ② 広報広聴活動の拡充
- ③ 住民自治組織の育成

本町では、鹿追町まちづくり基本条例に基づき、町民の町政参加機会の拡充として、最上位計画である総合計画及び本戦略などにおいて「公募・無作為抽出選出」を採用し、町民誰もが町政に参画しやすい環境づくりを実践しています。

広報広聴活動の拡充では、毎月発行している広報しかおいやホームページ、SNSによる情報発信のほか、町



ふれあいトーク

民からの提案などを随時受付する「やまびこメール」や職員が町内会に出向いて意見交換を実施する「地域マネージャー制度」さらには、町長と町民の懇談の場として「ふれあいトーク」を設け、誰もが参加し、まちづくりの意見交換ができる環境づくりを実践しています。

また、住民自治組織の育成として、町内会のあり方や活性化のための研修会や講演会及び活動支援助成などを行い、それぞれの地域が持つ特性や特色を生かして、地域の課題を地域みんなの力で解決できる組織の育成を実践しています。

本戦略においては、町民が将来にわたって安心して暮らすための「地域力」が求められている中、住民自治組織である「町内会」の体制支援等を図るとともに、自分たちの手で自分たちの未来を創る町民が主役のまちづくりを推進するため、地域の垣根を越えて交流が図れる町民参加の機会を創出することで、時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守り、地域と地域を連携することにつなげるものです。

## 4 おわりに

前段の中でも触れましたが、総合戦略は総合計画と同時に策定し、多くの町民と共に本町が進むべき「将来像」を共有しながら地方創生の実現について具体的に協議を進めて参りました。延べ220名が参加したまちづくりワークショップでは、鹿追高校生の有志が参加し、次代を担う若者が考える課題について大人と共に解決策を考えていく姿は、本町が将来像として掲げる「愛・夢・笑顔あふれる未来へ ～支え合うまち♡しかおい～」を想像させるものでした。

現在、世界は新型コロナウイルスという未曾有の事態に直面しており、あらゆる計画等が破綻しつつあり、本戦略の進捗にも大きく影響を及ぼしています。

ただ、地方自治体の普遍的な役割である「住み続けられるまちの追求」を根本として、時代に応じた「地方創生」を町民と共に考えていくことで、持続可能な鹿追町の確立に寄与するものと確信しています。



まちづくりワークショップ